

6月23日 ヨハネによる福音書4章27～42

「イエス様は対話をする方？」

今日の箇所少し前、ヨハネ福音書4章の前半部分は、イエス様が井戸に水を汲みに来たサマリア人の女性に「水を飲ませてください」と声をかける場面から始まっています。朝早くに行うことが当たり前だった水汲みをお昼に行っていた、人目を避けるようにしていたこの女性に対して、「お願いします」とユダヤ人であるイエス様が声をかけたのです。

人々と交わることを避けて暮らしていたこの女性は、誰からも避けられ、特にサマリア人として信仰上の理由でユダヤ人たちから避けられていました。神様からの愛など全く向けられているとは思っていない彼女に、イエス様は声をかけ、自分がメシアであることを語りました。

今日の箇所では、この女性から話を聞き、イエス様がメシアであると信じた人々がイエス様を自分たちの町へと招いています。きっかけは一人の女性による証言でしたが、実際にイエス様に出会いその言葉を受けることで、人々の信仰は「自分の信仰」としてはっきりとしたものになっていきました。

そこで彼らがこの女性に語る言葉、42節の「私たちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからである。」という言葉は、この女性からすれば随分失礼な言い方に思えます。この女性の言葉のおかげで、彼らは信じる事ができたのです。ただ、本当の意味において、この言葉はこのサマリア人の女性にとって大きな勇気を与えた言葉でした。自分が語った「イエス様がメシアだ」という言葉の導きによって、人々が「イエス様がメシアであると理解するに至った」そのことにつながったのです。自分の言葉が優れていたからイエス様がメシアであると説得できたのではなく、ただイエス様が真実にメシアである、キリストであることによって人々が信仰に至ることが出来たのです。誰からも避けられるような、そんな事情があるこの女性でも、イエス様を証しすることが出来る、それほどまでにイエス様が真実な方であり、本当に神の子である、そのことを証しすることが出来たのであります。

このような例を見てわかるように、イエス様が行っていたのはカウンセリングのような「対話」ではありませんでした。しかし、イエス様はその言葉を語ることによって、言葉を受ける人々が「神様と対話することが出来るようになる」、そんな言葉を授けて下さる方でありました。イエス様は神様のことを語り、神様の御心を教えるその中で、神様を愛し隣人を愛するその愛の行いこそが、神様が喜ぶことであると教え続けました。そのイエス様の言葉を受けて、自分の心の中をさらけ出して、そうして私たち人間は神様に会うことが出来るのです。至らないところの多い私たちを、そのまま受け止めて愛して下さる神様に、その至らなさに縮こまってしまう私たちを力づけてくれる神様に、私たちは御言葉を通して会うことが出来るのです。

そしてそれはイエス様だけではなく、私たちにも同じことが出来るのであります。今日の箇所に示されているように、私たち信仰者が誰かと言葉を交わす対話において、そこに「わたしと神様との対話」が生まれます。私たちが誰かと会話をする中で神様の御心を知り、そして私たちが語る言葉を通して、その相手も神様に会うことが出来るのです。聖霊に強められ、言葉を浄められた私たちには、その力が与えられているのです。

キリスト者として語る私たちのすべての言葉には、神様の力が与えられています。その力強さに支えられながら、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

- 27:その時、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話をしておられるのに驚いた。しかし、「何をお求めですか」とか、「何をこの人と話しておられるのですか」と言う者はいなかった。女は、水がめをそこに置いて町に行き、人々に言った。「さあ、見に来てください。私のしたことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。」人々は町を出て、イエスのもとへ向かった。その間に、弟子たちが「先生、召し上がってください」と勧めると、イエスは、「私には、あなたがたの知らない食べ物がある」と言われた。弟子たちは、「誰かが食べ物を持って来たのだろうか」と互いに言った。イエスは言われた。「私の食べ物とは、私をお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。あなたがたは、『刈り入れまでまだ四か月ある』と言っているではないか。しかし、私は言うておく。目を上げて畑を見るがよい。すでに色づいて刈り入れを待っている。刈り入れる人は報酬を受け、永遠の命に至る実を集めている。こうして、蒔く人も刈る人も共に喜ぶのである。『一人が蒔き、一人が刈り入れる』ということわざのとおりになる。私は、あなたがたを遣わして、あなたがたが自分で労苦しなかったものを刈り取らせた。ほかの人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実にあずかっている。」
- 38:さて、町の多くのサマリア人は、「あの方は、私のしたことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。そこで、サマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところに滞在してくださるよう願った。イエスは、二日間そこに滞在された。そして、さらに多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。彼らは女に言った。「私たちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからである。」